

インフルワクチン 供給遅れの見通し

今シーズンのインフルエンザワクチンについて、厚生労働省は昨季よりも遅いペースで供給されるとの見通しを示しました。昨季は流行しなかったインフルエンザですが、今季は新型コロナウイルスと同時流行する可能性があると専門家などが懸念しており、ワクチン接種や感染対策の徹底を呼び掛けられています。

コロナ同時流行に懸念

今シーズンの供給量は全体で約5130万～5500万人分。昨季より少ないものの、例年と同程度の確保が見込まれています。一方で世界的に原料などが不足しており、ワクチンが出て回るのは例年より遅れる見通しです。

昨季のインフルエンザの推定患者数は約1万4000人。例年の1／100万～2000万入程度より大幅に少なく、20厚生省によると、今季

19～20年のシーズン（約728万5000人）と比べても1000分の1以下でした。国立感染症研究所は「流行が発生しなかったと考えられる」と結論付けました。

川崎医科大学の中野貴司教授（感染症学）は「流行がなかった分、幅広く通せない状況です。日本ワクチン学会は6月、「コロナとインフルエンザの流行期が重なる」とが出回るのは例年より遅れる見通しです。

著者見で「昨年はコロナとの同時流行を懸念したが、なかつた。今年の流行を見通すのは非常に難しう」と述べています。

川崎医科大学の中野貴司教授（感染症学）は「流行がなかった分、幅広く通せない状況です。日本世代で感覚性者（免疫がない感染する人）が増加して今年は感染が広がる可能性がある」と指摘。

インフルエンザワクチン接種を積極的に検討するとともに、「冬は新型コロナやインフルエンザ以外にも感染症が流行する。感染対策を続けてほ

どく」が懸念される」と話しました。